

- 2015/08/31 憲法案修正提案, 9月5日締切
- 2015/08/30 「民主的」軍隊の危険性
- 2015/08/28 タライ民族自治の正義と国民国家の理念
- 2015/08/27 京都の米軍基地(79): 「パンとサーカス」と軍事支配
- 2015/08/26 「タルー州」要求デモ隊衝突, 死傷者多数
- 2015/08/26 美しくなった日本の山
- 2015/08/24 憲法案, 制憲議会に上程
- 2015/08/23 憲法案, 制憲議会議長へ提出
- 2015/08/22 京都の米軍基地(78): パンとサーカス
- 2015/08/22 保守回帰: ネパール世論調査
- 2015/08/17 新憲法制定, またまた延期
- 2015/08/14 京都の米軍基地(77):裁かれない米兵犯罪
- 2015/08/08 京都の米軍基地(76):分断支配に向けて
- 2015/08/07 第三の性パスポート, ネパール発行開始
- 2015/08/06 ツクツクの女性運転手さん
- 2015/08/03 観光客, 本当に少ない
- 2015/08/02 中国プレゼンス, 震災支援で急拡大
- 2015/08/01 暑くて濃いミニバス

憲法案修正提案, 9月5日締切

主要4党(NC,UML,UCPN,MJF-L)は, マデシやタルーあるいは他のジャナジャーティ諸派の停止要求を拒否し, 憲法制定手続きを予定通り進めている。

憲法起草委員会(シタウラ委員長)が8月21日制憲議会議長に提出し, 23日制憲議会に上程された憲法案は, 8月26日から審議され, 8月30日全体についての審議は終了した。この審議をもとに, 各議員は修正案を9月5日までに提出する。その後, 憲法案は逐条審議され, 修正案は2/3の多数をもって可決される。予定通り進めば, これらの制憲手続きは9月17日までにすべて完了する。

しかし, タライでは, 憲法案に対する激しい反対運動が続いている。8月31日, サプタリでバンダ破りのマイクロバスが焼かれたし, チトワンでも衝突が広がっている。また, カトマンズや他の都市部への物資輸送も, 厳重な警備をつけなければ, 困難となってきた。この状況で, 予定通り制憲手続きを進められるかどうか? 予断を許さない。

谷川昌幸(C)

2015/08/31 at 22:29 カテゴリー: [憲法](#) Tagged with [連邦制](#), [制憲議会](#)

「民主的」軍隊の危険性

ネパールの軍隊は、第二次民主化運動による民主共和制の成立により、国王の軍隊(王国軍)から人民の軍隊(ネパール国軍)になった。軍隊は、主権者たる人民(国民)が動員する。これは「民主的」だが、人民による軍動員には、国王によるそれより危ない場合が少なくない。

王政時代のネパール軍は、他国に比べはるかに小さく、しかも弱かった。王国軍は、主として国王を権威づけるため使用される儀式的軍隊、いわば王様の「おもちゃの軍隊」であった。だから、兵隊も兵器も大して必要ではなく、本格的な動員には大きなハードルがあり、また、たとえ動員してみても、実勢数千人の貧弱な武器しか持たないマオイスト・ゲリラに連戦連敗、まともに戦えないほど弱かった。

これに対し、民主化とともに、ネパールは軍拡を続け、いまや、小国の割には大きな十数万の大軍隊を擁する軍事国家となった。しかも、人民(国民)自身が軍をコントロールする建前なので、軍動員へのハードルは低い。国王が軍を動員し人民を殺せば大問題だが、人民自身が人民の軍を動員し「人民の敵」を殲滅しても、それは人民のためであり正義であって、手続きさえ形式的に踏んでおれば、そこに何の政治的問題もあるはずがない。

こうした「民主的」軍動員への兆しは、いまのマデシ／タルー紛争への国軍動員にも見て取れる。タライへの軍動員は、マデシ・タルー諸勢力はむろんのこと、人権活動家やヤダブ大統領も反対していた。ところが、ネパール政府は8月24日、暫定憲法第144,145条と地方行政法(1971年)第6条によりタライ(カユラリ、ラウタハト、サルラヒ等)への軍動員を決定した。

これに対し、タライへの軍動員を違憲とする訴えが出されたが、最高裁は8月28日、安全保障は国政敏感問題であり、訴えには違憲とするだけの具体的な証拠がないとして、訴えを棄却した。これは、結局、多数派の「民主的」軍動員には、少数派は司法的にも抵抗できない、ということに他ならない。

このような「民主的」軍動員がさらに多用され、拡大していけば、ネパール紛争は、封建王政下とは質的に異なる、現代型の歯止めなき民族紛争に陥る恐れがあると危惧せざるをえない。



[参照]

*1 “Home Ministry defends right to mobilise army to control riots,” Kathmandu Post, 28 Aug.

*2 “SC quashes writ against gov decision to mobilise army,” Kathmandu Post, 28 Aug.

*3 “SC annuls writ petition against army deployment,” Republica, 28 Aug.

*4 CPN-M, Madhesi, Janajati parties meet Prez over army mobilisation, statute issues,” Himalayan, 28 Aug.

谷川昌幸(C)

2015/08/30 at 15:27 カテゴリー: [軍事](#), [民族](#) Tagged with [シビリアン・コントロール](#), [連邦制](#), [民族紛争](#)

[タライ民族自治の正義と国民国家の理念](#)

州区画をめぐる紛争がカイラリ、ラウタハト、ジャナクプルなどタライ各地で激化していることを危惧したモディ印首相が、8月24日、コイララ首相に電話し、諸民族の調和と話し合いによる問題解決を要請した。また、これは未確認だが、Economic Times(26 Aug)によると、印首相は治安強化支援にさえ言及したという。タライは印国境沿いであり、モディ首相としては座視し得ないということだろうが、こうした電話は、大国からの政治的圧力、あるいは内政干渉と受け取られても致し方あるまい。

制憲議会審議中の7州案に対しては、他にも反対は少なくないが、いま反対運動の中心になっているのは、タライのマデシとタルー。彼らの主張はきわめて明快であり、民族自治の理念を認めるなら、「タルー州」や「マデシ州」の要求を拒否することは難しい。そのことを外国メディアの気楽さからイラストで単純明快に図解したのが、India Today(25 Aug)。ネパールを1本のソーセージにたとえ、縦切りにするか、横切りにするか、と問いかけている。



■ 国民国家の理念，一つの国民一つ国家



■ 憲法案の縦割り連邦制



■ マデシ，タルーの横割り連邦制

これは分かりやすい。縦割り州区画をすると、タライは丘陵地(伝統的支配民族／カースト)に従属したままとなる。これと対照的に、横割り州区画をすると、タライでは、そこに多数居住するマデシやタルーの人々の民族自治が実現する。

しかしながら、「マデシ州」や「タルー州」にも、いくつか難点がある。一つは、いうまでもなく、州内少数民族の権利をどう守るのかということ。そして、もう一つは、横割りでタライに1つないし2つの州をつくり、大幅な自治権を認めると、タライと同じ諸民族がインド側にも多数居住しているので、タライはインドとの関係を強化し、北方丘陵地、とくにカトマンズからは自ずと離れていくことになる。すなわち、国家分裂の危機である。

タイには、たしかに「民族自治」の正義がある。しかもその上、タイは、北方丘陵地、特に首都カトマンズへの補給の要所を握っている。タイは、その気になれば、いつでもカトマンズを兵糧攻めに出来る。すでに、この数週間のタイ闘争で、カトマンズでは生活必需品が不足し物価高騰が始まっている。タイには、正義に加え、強力無比の対カトマンズ闘争手段もある。宿痾の内輪もめさえ自制できれば、タイ勝利の可能性は高い。

しかし、そうなれば、今度はネパール国家分解の恐れが出てくる。民族の正義と国民国家の理念との相克――これは難しい。

谷川昌幸(C)

2015/08/28 at 20:19 カテゴリー: [憲法](#), [民族](#) Tagged with [連邦制](#), [自治](#), [制憲議会](#), [国民国家](#)

京都の米軍基地(79): 「パンとサーカス」と軍事支配

京丹後にとって、8月24日の穴文珠祭は、米軍による「パンとサーカス(食事と娯楽)」饗応が軍事支配と表裏一体であることを、事実をもって示してくれた最初のまたとない機会となった。

穴文珠祭では、米軍がホットドッグとポップコーン(食事)を振る舞い、米軍軍楽隊演奏(娯楽)で地元民を楽しませた。まさしく「パンとサーカス」。ここに市長、区長等々の地元有力者、名士らが参加していたことはいうまでもない。



■軍楽隊演奏／屋台(経ヶ岬米軍 FB, 8月27日)

その一方、おそらくほぼ同時期に、隣の米軍基地では、Xバンドレーダーの能力強化作業が着々と進められていた。作業に当たったのは、米軍通信担当軍人、レイセオン社とロッキード・マーチン社の社員、そして「現地社員(日本の下請軍需産業社員?)」である(米陸軍 HP, 8月25日)。見方によれば、穴文珠祭での「パンとサーカス」による住民饗応は軍事基地強化のカモフラージュといってもよいかもしれない。さすが、「パンとサーカス」の先進国だ。

米軍Xバンドレーダーは、どのようなものか？ はっきりそうとは明示されていないが、米陸軍 HP(8月25日)によれば、経ヶ岬レーダードーム内のレーダー本体は、下図のものらしい。レーダー能力強化担当者

らしき人々がレーダードームの横に立っている写真の前の写真に、このレーダーが写っているのだから、たぶん間違いないだろう。



■ 整備担当らしき人々とレーダードーム／ドーム内レーダー(米陸軍 HP, 8月25日)

これは、8月25日以前であれば、「軍事秘密」であり、たぶん「特定秘密」だ。が、宗主国が流したのだから、そのあとで従属国臣民が転載しても、よもや重罪に問われることはあるまい。

こと、さほどに従属国臣民は卑屈にして屈辱的な立場にある。「パンとサーカス」饗応に浮かれているは、気付きもしないだろうが。

谷川昌幸(C)

2015/08/27 at 19:23 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) Tagged with [パンとサーカス](#), [特定秘密](#), [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

「タルー州」要求デモ隊衝突、死傷者多数

極西部カイラリ郡ティカプルで8月24日午後、統一「タルー州」を要求するデモ隊と警官隊が衝突、死者8名余と負傷者多数(40~60名)が出た。いまわかっている死者は、警官5人、武装警官2人、子供(2歳男児)1人。

カイラリ郡は、タルー民族が43.7%。東隣のバルディア郡はタルー民族52.6%。ところが、8月23日に制憲議会上程の憲法案では、カイラリ郡は西隣のカンチャンプル郡(タルー23.3%)とともに、バルディア郡など東側のタルーの多いタライ諸州とは切り離され、極西部丘陵諸郡からなる第7州に組み入れられることになってしまった。これは、タルーからすれば、民族分断支配に他ならず、とうてい許容できないということになる。

そこで「タルー統一闘争委員会」などの呼びかけで、統一「タルー州」要求デモが広がり、政府の出した外出禁止令(11:00~17:00)をも無視し、政府施設「ネパール政府」表示の「タルー州」への書き換えを図るなど、激しい反政府闘争を繰り広げてきた。そうした中、24日午後、約2万人のデモ隊と、それを阻止しようとした警官隊とが衝突、多数の死傷者を出すことになってしまった。この衝突は、紛れ込んだマオイスト分派過激分子の煽動の結果だとも言われているが、事実かどうか、まだわからない。



■カイルリ郡ティカプル(赤印, 赤表示)(Google)

他方、東部タライでも、マデシ系の人々が、モラン、スンサリ、ジャパなどのタライ諸郡を丘陵中心の第1州に組み入れることに反対し、激しい闘争を繰り広げている。また、ヤダブやタルー、ムスリムの多い中部タライのラウタハトやサルラヒでも反政府闘争が激化している。このように、西部タライだけでなく東部・中部タライでも、先行きは予断を許さない。

もともとインド国境沿いのタライは、各郡の最多民族図(下掲)を見てもわかるように、タルー、ヤダブ、ムスリムなどが多く、北方丘陵地や山地とは民族/カースト構成が大きく異なる。したがって、カトマンズ中央権力がここに人為的に州区画線を引こうとすると、どのように引こうが、抵抗は免れない。実に難しい問題である。

▼憲法案の7州連邦制(karma99.com)



▼郡別最多民族(karma99.com)



* 薄茶タルー, 濃茶ムスリム, 赤ヤダブ

2015/08/26 at 20:15 カテゴリー: [マオイスト](#), [憲法](#), [民族](#) Tagged with [タライ](#), [タルー](#), [マデシ](#), [ムスリム](#), [ヤダブ](#), [連邦制](#), [制憲議会](#)

美しくなった日本の山

久しぶりに日本の山に登ってきた。といっても、運動不足の虚弱老体、新穂高ロープウェイで2156mまで登り、西穂独標(2701m)まで行ってきたにすぎないが。

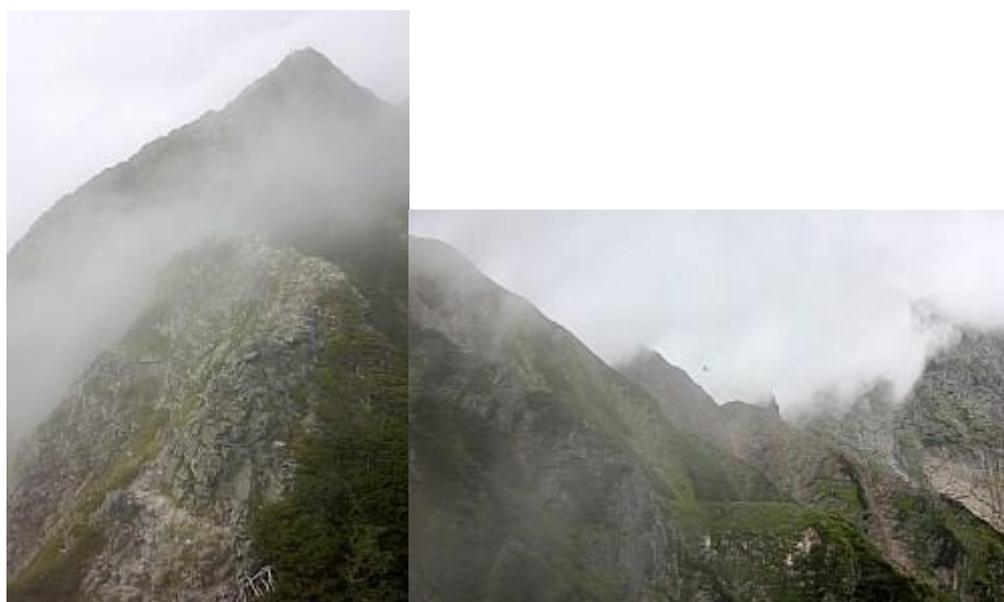


■美しい日本の山

感心したのは、登山道や山小屋周辺が美しくなり、文字通りゴミ一つ落ちていなかったこと。以前は、人の気配のするところには、たいていビニールや紙屑、生ゴミなどが散乱していたが、今回、西穂を歩いた限りでは、そのようなことはまったくなかった。

これは、おそらく山関係の方々の長年の努力の結果、一般の登山者にも山にゴミを捨てない習慣が身についてきたからであろう。

これは誇るべき文化だ。こうした文化は、形成には長年の地道な努力が必要だが、破壊は簡単、誰かが無視し始めたら、すぐ元に戻ってしまう。大切に守り育てていきたいものだ。



■西穂～奥穂:難所多し。滑落者搜索ヘリ(右図中央)



■まだ花盛り

谷川昌幸(C)

2015/08/26 at 14:36 カテゴリー: [自然](#), [文化](#) Tagged with [登山](#), [西穂高](#), [山](#)

憲法案, 制憲議会に上程

正式の憲法案が8月23日, 制憲議会(CA)に上程された。26日からCAにおいて審議が始まる。

前回も述べたように, この憲法案は, NC,UML,UCPN の議会三大政党が, 最終段階において MJF-L を切り捨て, 憲法起草委員会に7州案を採用させ, 強引にCAに提出させたもの。

当然, ギリギリの瀬戸際で裏切られた MJF-L は激怒し, 23日のCA本会議は他のマデシ系諸派とともにボイコットした。また, 「ヒンドゥー国家」復帰を唱える RPP-N も, 3党ごり押し憲法案の上程には議場で激しく抗議した。

議会三大政党は, 新憲法は20-30日の審議で制定できると見ているが, マデシ/タルー系諸派はこれに激しく反発している。とくに, 分断されることのない「タルー州」を要求しているタルー諸派は, タライ・バンダ(ゼネスト)を2週間前から続けており, なお継続強化の方針だ。また, サドバーバナ党は, 4議員が抗議辞任し, 他の2議員も続いて辞任することになっている。

このようにして, マデシ/タルー系諸勢力が, CAを見限り院外闘争で結集し, 実力行使を激化させていくと, そしてそれを三大政党内のマデシ/タルー系の人々が陰に陽に支援し始めると, ネパールは, マオイスト紛争とは別の, いわば本物の民族紛争に陥る恐れがある。むろん, インドの出方によるところが大きい。

▼巨体もてあます制憲議会



[参照]

*1 “Four SP members resign,” Himalayan, August 24, 2015

*2 “Statute Bill tabled amid opposition,” Kathmandupost, Aug 24, 2015

*3 “Politics in Tarai ‘volatile’ as charter nears finish,” Kathmandupost, Aug 24, 2015

*4 “THARUHAT PROTEST EXTENDED TILL SEPT 2 AS THEIR DEMAND FALLS ON DEAF EARS,” Republica, 24 Aug 2015

2015/08/24 at 19:22 カテゴリー: [憲法](#), [民族](#) Tagged with [タライ](#), [タルー](#), [マデシ](#), [連邦制](#), [制憲議会](#)

憲法案, 制憲議会議長へ提出

憲法起草委員会(CDC, シタウラ委員長)は8月21日, 正式の憲法案を採択し制憲議会(CA)議長に提出した。ネバン CA 議長は, この憲法案を8月23日の CA 本会議に上程する予定。

- ・8月21日:シタウラ CDC 委員長, 憲法案を採択し, ネバン CA 議長に提出。
- ・8月23日:憲法案の CA 本会議上程予定。
- ・以後3日間:議員による憲法案閲覧・検討。
- ・以後1週間以内:修正案の提出期間。
- ・⇒CA における逐条審議。修正案は2/3の多数により可決。
- ・⇒CA 採決。

21日の正式憲法案の CA 提出により, 制憲議会は新憲法制定に向け大きく一歩前進した。しかも, 提出された憲法案の修正には2/3の多数の賛成が必要なので, 既定手続き通り進めば, 成立までにそれほどの日数は必要ではない。次の制定期限は9月11日という声も出始めた。

が, しかし, そうすんなりとはいかないのがネパール。そもそも正式憲法案採択が, ドロドロ・ドタバタ劇。

- ・6月8日:NC,UML,UCPN,MJF-L「16項目合意」。8州連邦制。
- ・8月5ないし6日:上記4党,「6州案」合意。
- ・8月20日:上記4党,「6州案」の CDC 採択合意。
- ・8月21日:NC,UML,UCPN のみの賛成で CDC が「7州連邦制」憲法案を採択し, CA 議長に提出。

この間, 新憲法の中核たる連邦制は, 8州⇒6州⇒7州と, まるで猫の目, 何がどうなっているのやら, 見当もつかない。

▼CDC 憲法案の7州区画(*4)



▼4党8月6日合意の6州案(Kathmandupost FB, 9 Aug)



ただ、最終段階における MJF-L の離脱で、対立図式ははっきりしてきた。タライにおける州自治権を要求するマデシないしタルーと、これに反対し7州連邦制を強行しようとする3党連合の対立である。

MJF-L は、議会では 14 議席しかもたないが、4 党連合からの離脱により他のマデシ系諸派との連携が容易となったし、また、タライでの実力闘争によりカトマンズを兵糧攻めにすることも難しくはない。こうした状況を考え合わせるなら、9 月 11 日の新憲法公布もまたまた空約束ということになりそうである。

[参照]

- *1 “Panel hands over final draft to CA chairman,” Kathmandu Post, Aug 22, 2015
- *2 “Sitaula submits final draft to CA Chair,” Himalayan, August 21, 2015
- *3 “Statute by Sept 11 despite protests, claims Rawal,” Himalayan, August 21, 2015
- *4 “Three parties ink 7-state agreement,” Ekantipur, Aug 22, 2015
- *5 “MJF-L hints of consensus if parties agree on eight provinces,” Kathandu Post, Aug 22, 2015
- *6 “MJF-L severs ties with NC-UML-Maoist bloc,” Kathmandu Post, Aug 22, 2015

谷川昌幸(C)

2015/08/23 at 19:12 カテゴリー: [憲法](#) Tagged with [タルー](#), [マデシ](#), [連邦制](#), [制憲議会](#)

[京都の米軍基地\(78\): パンとサーカス](#)

「パンとサーカス」あるいは「酒食と見世物」は、古来、支配権力が住民を懐柔し服従させるため使用する常套手段である。

これは、古代ローマについてと同様、現代日本の京丹後についても、そのまま妥当する。現在、京丹後最強の権力は、事実上、進駐米軍。したがって、その米軍が、彼らの古き良き伝統に忠実に従い、原住民たる京丹後市民に対し、「パンとサーカス」の提供を始めたのは、至極当然の成り行きといえよう。

米軍とその奉公人たる防衛省の提供する「パンとサーカス」は、目白押し。以下、その一部を紹介する。

▼盆踊り参加

14th Missile Defense Battery participated “BON dance” at the [Kyotango City hall](#), Mineyama, on Aug.14 and 15 and enjoyed Japanese traditional culture with the local community.

第 14 ミサイル防衛中隊は 8/14,15 に [京丹後市役所で開催された](#)盆踊り大会に参加し、地域の方と日本

の伝統的文化を楽しみました。(経ヶ岬米軍 FB, 8 月 17 日; 赤強調引用者)



■微妙な表現の綾はむろん意図的。そこが「パンとサーカス」の巧妙さ。子供の顔は引用者消去(米軍は原住民肖像権無視)。

▼日米交流事業

■日米交流屋台＋米軍軍楽隊演奏＋花火＋盆踊り。主催：近畿中部防衛局／会場：穴文珠。(経ヶ岬米軍 FB, 8 月 17 日; 京丹後市日米友好協会 FB, 8 月 18 日)

▼在日米軍軍楽隊演奏会(1)

在日米陸軍軍楽隊演奏会
8月24日(月)
11:30開演 無料
ショッピングセンターメイン

お問い合わせ
近畿中部防衛局 06-6945-4956
または Email: 14thmdb@gmail.com
主催：米陸軍経ヶ岬通信所

■主催：米陸軍経ヶ岬通信所／連絡先：近畿中部防衛局。(経ヶ岬米軍FB, 8月13日;京丹後市日米友好協会 FB,8月18日;京丹後市観光協会 FB, 8月18日)

▼在日米軍軍楽隊演奏会(2)

在日米陸軍軍楽隊演奏会
8月25日(火) MOPPEN SPACE 市場店
京丹後市峰山町御旅市場
11:30開演 無料

お問い合わせ
近畿中部防衛局 06-6945-4956
または Email: 14thmdb@gmail.com
主催：米陸軍経ヶ岬通信所

■主催：米陸軍経ヶ岬通信所／連絡先：近畿中部防衛局。(経ヶ岬米軍FB, 8月13日;京丹後市日米友好協会 FB,8月19日,)

谷川昌幸(C)

2015/08/22 at 17:39 カテゴリー: [軍事](#), [外交](#) Tagged with [パンとサーカス](#), [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

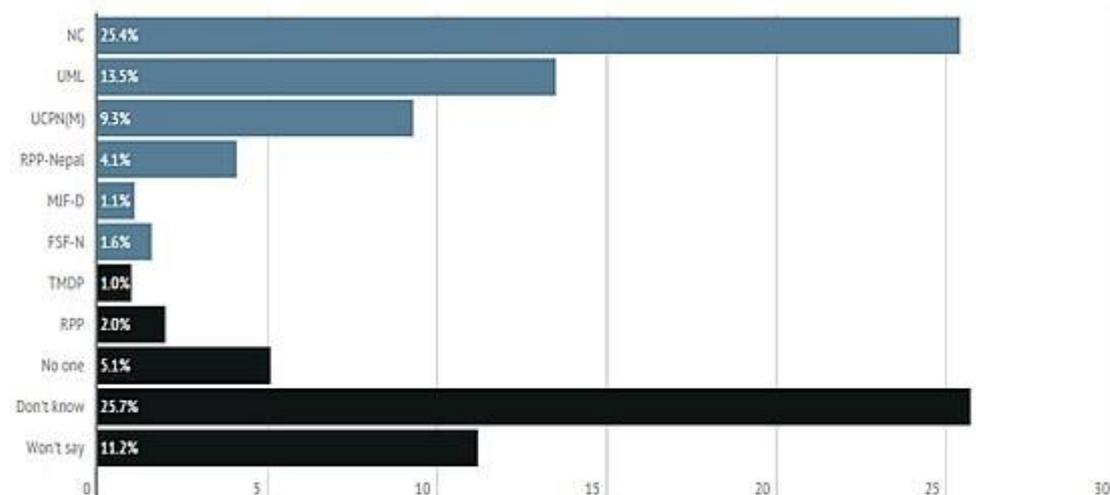
[保守回帰: ネパール世論調査](#)

「ヒマールメディア世論調査 2015」は、実感として感じられるネパールの保守回帰を数字で実証しており、たいへん興味深い。(Himalmedia Nationwide Public Opinion Survey 2015, *Nepali Times*, #771,14-20 August 2015)

1: 支持政党

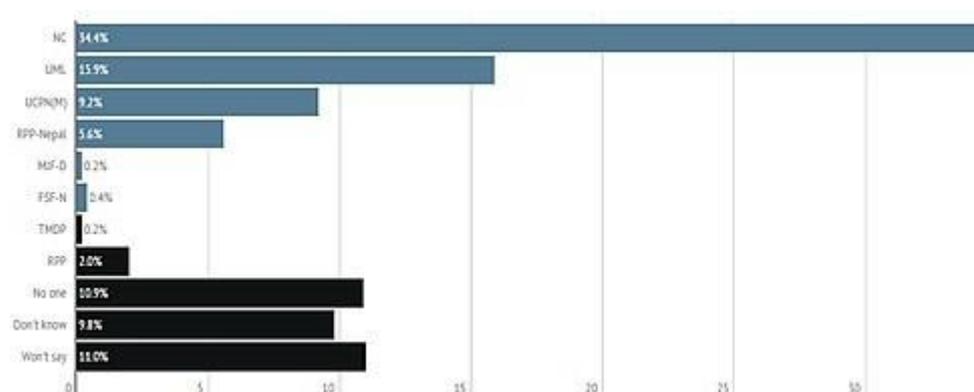
平和・繁栄・民主主義を推進するのはどの政党だと思いますか？

(1)2015年8月



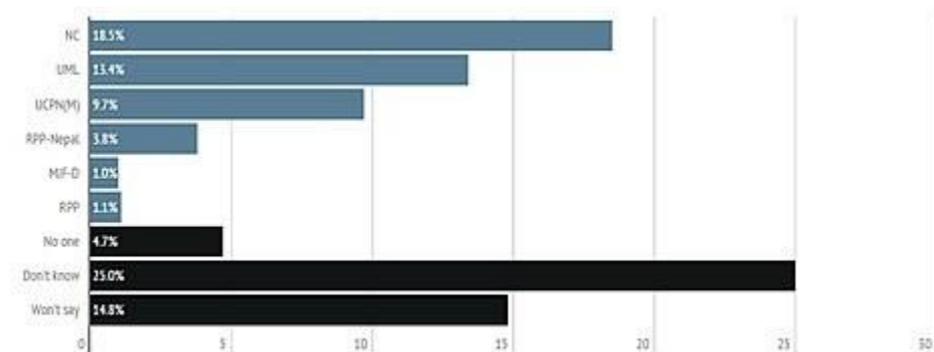
* NC25.4, UML13.5, UCPN9.3, RPP-N4.1, わからない 25.7

(2)2015年1月



* NC34.4, UML15.9, UCPN9.2, RPP-N5.6, わからない 9.8

(3)2013年

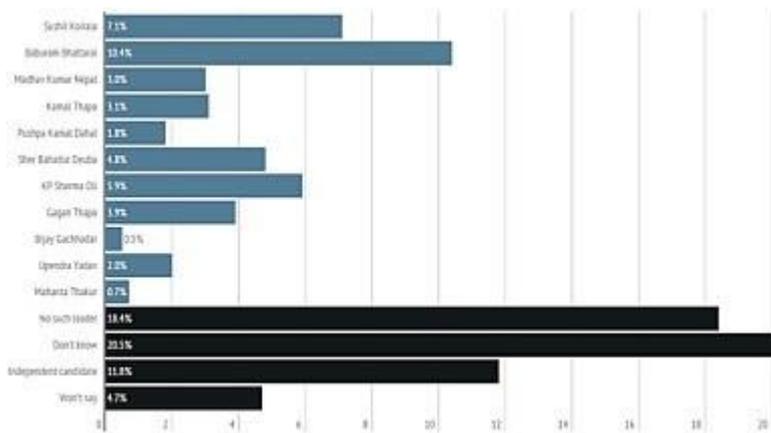


* NC18.5, UML13.4, UCPN9.7, RPP-N3.8, わからない 25.0

2: 次期首相

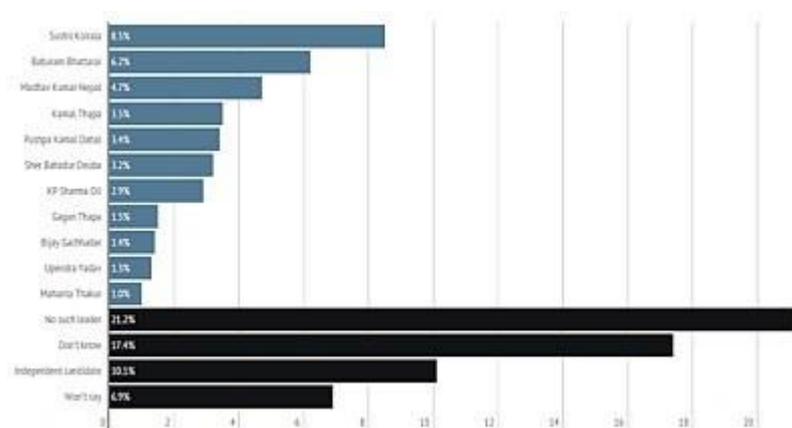
次の首相に相応しいのは誰だと思いますか？

(1) 2015年8月



* スシル・コイララ 7.1, バブルム・バタライ 10.4, KPS・オーリ 5.9, 適任者なし 18.5, わからない 25.4

(2) 2013年



* スシル・コイララ 8.5, バブルム・バタライ 6.2, MK・ネパール 4.7, 適任者なし 21.2, わからない 17.4

3 世俗主義

憲法は宗教についてどう規定すべきだと思いますか？

(1) 世俗主義(Secularism)



* 山地 15.7, 丘陵地 19.5, タライ 21.5

(注)憲法で「世俗国家」と規定するか、あるいは単に「宗教の自由」を規定するにとどめるかについて、意見が鋭く対立している。後者の場合、「布教の自由」が事実上制限されると見られている。

新憲法制定, またまた延期

新憲法制定は, 7月中旬の予定が延期され, 8月16日とされていたが, これもまた延期されてしまった。つぎはいつになるか, 今のところ不明。

そもそも主要4党(NC,UML,UCPN,MJF-L)が, 震災対応に迫られ, 新憲法制定に関する「[16項目合意](#)」に署名したのが6月8日。このときの「合意」では, 8州からなる連邦国家憲法を起草し, 7月16日に制定公布することになっていた。ところが, 議論が紛糾し, 期限までに起草できなかったため, 主要4党は憲法制定を8月16日まで延期し, そして8月5日には, 州の数を6とし, 州区画までも決めて発表した(下図参照)。しかし, それでも最終合意にはいたらず, またまた制定先送りとなってしまった。

こうした混迷の中, 憲法起草作業は徐々に kongressu 寄りなり, それに反比例して, 反対も激しくなってきた。反政府 33 党連合は 8 月 16-17 日, バンダ(ゼネスト)を行い, 各地で警察と衝突, 117 人が逮捕された。タライでは, 与党寄りという理由でカンチプル, ナガリク, アンナプルナポストなどが焼かれた。また憲法起草委員会では 8 月 14 日, UCPN 選出委員がシタウラ委員長(NC)の委員会運営方法に抗議し, 辞任してしまった。

コイララ首相は, 全般的な保守回帰, NC 優勢もあってか, 新憲法起草は着実に進み, 明日にでも公布可能だ, などと語っているが, しかし各紙報道を見ると, 新憲法の根幹部分についてですら合意はまだ見られていないといわざるをえない。

州の数は8⇒6となったが, ここにきて, NC は7州でもよいといっている。あるいは他にも, 「世俗」規定を入れるか否か, 比例制に最低得票率を設定するか否か, 現職首相・大臣等の任期をいつまでにするかなど, 以前からの懸案事項がそのまま残っている。この状況で, 新憲法は, いったいいつになったら出来るのであろうか?

▼6州案(Kathmandupost FB, 9 Aug)



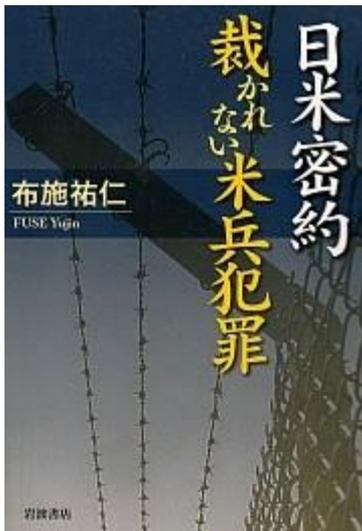
谷川昌幸(C)

京都の米軍基地(77):裁かれない米兵犯罪

米軍経ヶ岬基地は、在日米軍基地の一つであり、したがって他の基地周辺で起こっていることが京丹後でもいずれ起こると覚悟すべきである。京丹後だけは例外と考えるのは非合理であり、根拠なき単なる希望的観測にすぎない。では、何が起こるのか？ この問題を考えるのに参考になるのが、この本：

●布施裕仁『日米密約 裁かれない米兵犯罪』岩波書店, 2010年

「なぜ米兵犯罪は裁かれないのか。強姦や暴行の被害者が裁きを求めて得られないのは、なぜなのか――。徹底的取材で明らかになった日米密約とその関連文書には、米兵犯罪を日本で裁かせないようにするための数々の巧妙なトリックと日米両政府の申し合わせが隠されていた。……現代の治外法権を追う。」
(表紙カバー)



本書によれば、米軍人・軍属らによる犯罪や重大事故が、いまでも日本各地で幾度となく繰り返されている。その要因はいくつか考えられるが、最も根本的なものの一つが米軍人・軍属には日本の警察権や刑事裁判権が十分には及ばないこと。

米軍人・軍属は、日米地位協定により、基地に逃げ込めば日本側には逮捕されず、また「公務中」の犯罪や交通事故は米軍側に裁判権がある。「公務中」か否かは米軍側が判断。)さらに、「協定」以外にも、「非公開取り決め」や「密約」が巧妙に幾層にも仕組まれており、米軍人・軍属は不起訴にされたり、刑が著しく軽くされたりする事例が多数ある(vii 頁)。いわば「現代の治外法権」。これでは、米軍人らの犯罪や交通違反がなくならないのは当然といえよう。

▼米軍人らの犯罪(2001～08年, 17頁表2より作成)

[罪名]	[起訴(人)]	[不起訴(人)]	[起訴率(%)]	[起訴+不起訴(人)]
殺人	3	1	75	4
傷害暴行	64	174	27	238
強姦	8	23	26	31
強制猥褻	2	17	11	19
住居侵入	17	78	18	95

強盗	33	13	72	46
窃盗	37	474	7	511
車等による				
業務上過失	427	2140	17	2567
死傷				

この数字は、表沙汰になったものだけ。それでも、8年間で、これだけある。被害者の中には、米軍人・軍属らの享受する「現代の治外法権」に絶望し、被害の訴えを諦め、泣き寝入りしてしまった人も少なくないはずだ。

京丹後は、「国益」のために米軍基地を受け入れた。その代償も、むろん地元京丹後が支払うことになる。お国のために滅私奉公！

▼基地交付金設置の住民監視カメラ



【参照】伊波洋一・柳澤協二『対論 普天間基地はなくせる』かもがわブックレット, 2012 [2016年1月26日追加]

[伊波](米軍基地の)残し方に二つの大きな問題があります。……

一つは、米軍基地の運用を米軍に委ね、日本政府の関与を認めないというものです。つまり、米軍基地の使用権の自由です。

もう一つは、米軍人とその家族及び軍属が起こす犯罪について、日本政府が責任を問わないというものです。日本に裁判権があっても、それを放棄するという密約がある。

最近、沖縄で帰宅時の危険運転の事故で軍属が若者を死亡させ、日本側に裁判権がないことが問題になりました。なぜかと言うと、公務中の事故はアメリカが裁くことが取り決められているからです。でも、アメリカでは一九六〇年の連邦最高裁判決で戦時以外は軍属を軍法会議で裁いてはいけないということが確定している。つまり、軍属は日本でもアメリカでも裁かれない。飲酒運転であっても帰宅中は公務とされます。こういうことがずっと続いてきたのです。(7頁)

[京都の米軍基地\(76\):分断支配に向けて](#)

分断支配(分断統治, 分割支配, Divide and Rule, Devide and Conquer)は, 西洋の古典的戦略であり, 特にアングロサクソンはこの戦略に長けている。米軍の京丹後政策が, お得意のこの分断支配戦略の現地適用であることはいうまでもない。

関連情報は, ふんだんにある。といっても日本側はご主人様にお伺いを立てないと出せないのが少ないが, 支配者側の米軍はおうよう, 気前がよい。のぞいてみると, 面白い情報がいくらでも見つかる。

下掲はそのいくつか。米軍は, 軍事的, 政治的には言うまでもなく, 文化的にも圧倒的な優位にあり, 日本側は劣位。正誤, 優劣の判断は, 彼らが下す。この優劣関係の下では, 現地住民は, 米軍に近づけば近づくほど文化的, 政治的, 経済的な様々な利得にありつける。住民分断は, 住民自身の自発的協力により進行していく。

米軍は, 軍人・軍属やその家族に米語をしゃべらせ, 飲み食いさせ, 遊ばせるだけでも, 住民分断支配を進めることができる。お見事!

[参照]内田樹・白井聡『日本戦後史論』(徳間書店 2015年)。「米属国としての日本」の「対米従属」に関する刺激的で面白い対話。

▼京丹後米軍「フェスタ飛天(弥栄町 8月1-2日)」参加



■米軍が「カンティーナ」(日米友好協会経営)を支援し参加(京丹後米軍 FB,8月3日)

▼京丹後米軍「ドラゴンカヌーレース(久美浜町 7月26日)」参加(京丹後米軍 FB,7月26日)



▼沖縄米軍による成績評価(嘉手納町 7 月 16 日)



■後援:米軍第 18 航空団, 審査員:同航空団副司令官他(在日米軍 FB,7 月 20 日)

▼京丹後市日米友好協会

『京丹後市日米友好協会』とは？

目的
『京丹後市民』と
『米国人をはじめとする基地関係者』との
『相互理解と友好関係を増進し、
『地域社会の安心安全に貢献』する
特定非営利活動法人(NPO)です。
どんな方法で？

■協会 FB, 7 月 10 日

メキシコ食堂
Friendship Clubhouse
CANTINA
カンティーナ

営業時間 11:30~24:00 定休日 木曜日
8月5日(水)からランチ営業開始!

チキンステーキ	2割 850円 1割450円
ステーキ	2割 950円 1割550円
チキンステーキ(ビーフ or チキン)	8900円 11350円
グリルステーキ or チキン +ジャガイロイタス	1450円
トルキーやき肉(ステーキ用)orチキンステーキ	850円
チキンソテー(ステーキ用)orチキンステーキ	4割700円or割1500円

ドリンク	
※ビール	
ハイワイザー	ジョッキ 600円
タンブラー	500円
※紅ビール	
ニューズレイン	1000円
パスベル	800円
コロン	800円
キンバートランド	800円
ザニス	800円
ハイワイザー	700円
ハイネケン	700円
ローレンゴロイ	700円
＜ノンアルコールドリンク＞	
ネリシソー	400円
ノンアルコールソーダ	400円
ソーダ(ミネラルウォーター)	400円
ペプシコーラ	350円
ドクターペッパー	350円
オレンジジュース	300円
レモンソーダ(オレンジジュース)	350円
アップルジュース	300円
カーボンネ	350円
緑茶	200円
レモン	600円
スエド	600円

■協会経営レストラン「カンティーナ」(同店 FB, 8 月 3 日)

谷川昌幸(C)

2015/08/08 at 16:24 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#), [文化](#) Tagged with [白井聡](#), [米軍](#), [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [英語帝国主義](#), [Xバンドレーダー](#), [内田樹](#), [対米従属](#), [京丹後](#)

第三の性パスポート、ネパール発行開始

性解放, ジェンダーフリーの世界最先進国ネパールで, ついに「第三の性」パスポートの発行が始まった。最初の取得者は, カイラリのトランスジェンダーの人となるらしい(Himalayan, 8 Aug)。

手続きは, まず「第三の性」市民登録をし, それを示して「第三の性」パスポートを取得する。

ネパールでは、すでに2007年、最高裁が「第三の性」市民登録の受理を命令する判決を下し、2013年の第2次制憲議会選挙でも「第三の性」有権者登録が実施された。この流れからして、「第三の性」パスポート発行は当然の結果といえよう。すでに何回か紹介したように、ネパールの出入国関係文書は「男」「女」「その他」の3カテゴリーとなっている。

ジェンダーフリー最先進国ネパールでは、これから先、「第三の性」のための制度や設備がどんどん整備されていこう。そして、「第三の性」といっても、LGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー)など多様だから、「第三の性」がさらに個々人の固有の性的アイデンティティごとに細分化され、そのそれぞれについて自由と権利を保障するための制度と設備が整備されて行くにちがいない。人をその固有のアイデンティティにおいて尊重するとは、そういうことだから。

さて、そこで問題は、性的後進国・日本の対応。ネパール政府がパスポートで「第三の性」としての身分を保証し、旅行の安全を公式に要請しているとき、日本政府がそれを頭から無視することは難しかろう。日本の出入国に「第三の性」カテゴリーを追加せざるを得ないのではないだろうか？

そして、そうなれば論理的には日本国内でも、とりあえずは人々を「男」「女」「第三の性」の3カテゴリーに大別し、それぞれの人々に対応しうるよう制度や設備を整えて行かざるをえなくなる。たとえば、スポーツ種目の「男」「女」「第三の性」への組み替え、あるいは温泉施設における「男湯」「女湯」「第三の性湯」設置など。

これは悩ましい。超先進国ネパール以上に、後進国・日本にとっては。

▼ブルーダイヤモンド協会



▼「第三の性」出入国カード

[参照]

[性的少数者の権利、先進国ネパールから学べ](#)

[M・F・X:ネパール「第三の性」旅券発行へ](#)

[「第三の性」パスポート、最高裁作成命令](#)

谷川昌幸(C)

ツクツクの女性運転手さん

ディリバザール・マイティデビからスンダラまでツクツク(サファテンプ, 電動三輪小型バス)に乗った。運転手は女性。ワンウーマン・バスないしワンパーソン・バスで, 運転と料金受け取りを一人でこなす。高度で厳しい仕事。

ネパールの交通は, 繰り返し述べてきたように, 信号に従う法治(規則=ルールの支配)ではなく, 人(の動き)を見て自分の動きを決める人治である。われ先にと1mでも, 10cmでも先に進もうとする車やバイクの大群の中であって, ギリギリのところ動きを決めるのは, 運転手あるいは乗員の見てくれ。見てくれの立派な方(上位身分に見える方)が, 優先権を行使し, 先に進む。(参照:[信号機](#) [人治](#) [交差点](#))

そこでツクツク女性運転手。運転席のすぐ近くで観察していると, やはりナメられている。勇猛果敢に渋滞の中に突っ込んではいるものの, 角突き合わせ, 二進も三進もいかなくなると, 結局は道を譲らされたり, バックさせられたりする。明らかなセクハラ。ケンカランが, 現実には男社会, いまのところどうにもならないらしい。

ネパールでは, マオイストの蛮勇により男女平等が目覚ましく進展し, いまや多くの分野で日本よりはるかに進んでいる。そのうち交通でも, 女性運転手諸氏が屈することなく日々勇敢に闘い続けるなら, 女性に対等の交通実権を獲得することになるのは間違いない。

これは女性の「権利のための闘争」。西洋の「レディーファースト」えせ女性の権利とは, ものが違う。頑張れ, ネパール女性バス運転手諸君!

▼スンダラ(ネパール航空前)ツクツク乗り場



▼「第三の性」選択欄付き出入国カード(「第三の性」欄=○印)

Ministry of Home Affairs Department of Immigration ARRIVAL INFORMATION (TO BE FILLED BY FOREIGN NATIONALS)		Ministry of Home Affairs Department of Immigration DEPARTURE INFORMATION (TO BE FILLED BY FOREIGN NATIONALS)	
PLEASE FILL IN BLOCK LETTERS OR MARK ☑		PLEASE FILL IN BLOCK LETTERS OR MARK ☑	
First Name		First Name	
Middle Name		Middle Name	
Family Name		Family Name	
Date of Birth	DD MM YYYY	Date of Birth	DD MM YYYY
SEX	Male <input type="checkbox"/> Female <input type="checkbox"/> Other <input checked="" type="checkbox"/>	SEX	Male <input type="checkbox"/> Female <input type="checkbox"/> Other <input checked="" type="checkbox"/>
Passport Number		Passport Number	
Indian nationals from Andhra Pradesh other authorised ID			
DD MM YYYY			
Expiry Date			

観光客, 本当に少ない

地震後3か月たつというのに、観光客は本当に少ない。オフシーズンにはちがいないが、それにしても往きのタイ航空はガラガラだったし、カトマンズやパタンの観光地にも外人観光客はほとんどいなかった。中華街と化しつつあるタメルにも、中国人客はごく少ない。噂では、地震被害のほとんどなかったポカラ方面でも、観光客は激減だそうだ。これでは、観光業者は大打撃をまぬかれないだろう。

これは風評被害。震災復興のためにも、安全なところへの観光はもっともっと宣伝してしかるべきであろう。ネパール激励観光ツアー「ネパールで散財しよう!」。これは正常な経済活動であって、一方的な援助に伴う不愉快な副作用はない。大いに遊んで、そのことが結果的に震災ネパールの復興に寄与することになる。



■ スンダラ付近/ジャタ付近



■ ジャタ付近/タメル



■旧王宮



■キルティプル近郊

谷川昌幸(C)

2015/08/03 at 18:44 カテゴリ: [旅行](#) Tagged with [震災](#), [地震](#)

中国プレゼンス, 震災支援で急拡大

ネパールにおける中国のプレゼンス(存在感)が、急拡大している。小中学校に行くと、以前は「こんにちは！」などと声をかけられたが、いまでは「ニーハオ」だ。街には中国製品があふれ、あちこちで中国企業が工事をしている。

そして、それにダメ押ししたのが、震災救援活動。どこにいても中国政府援助の青テントや「中国紅十字」の白テントが張られている。公園はむろんのこと、路地にも民家の庭にも中国援助テントはある。(個人購入中国製テントもあるかもしれないが、見ただけでは区別できない。)とにかく、ものすごい数。

援助国、援助団体などの間で援助地域割りがなされているのかどうか知らないが、首都圏を見るかぎり、メッセージは一目瞭然。中国は、目に見える形で、被災したネパールの人々を全力で支援している、ということ。

震災後のテント緊急援助は有効で、中国の支援は高く評価される。と同時に、その中国の震災救援作戦は、政治的にみても実に見事であり、羨望を感じざるをえない。なにはばかることなき大国のおおらかなふるまい——日本にはとうてい真似はできまい。

▼中国援助テント



■トウンディケル／ラーニポカリ



■パタン



■パタン／キルティプル



■ムルク(バラジュ北西の村)

谷川昌幸(C)

2015/08/02 at 18:59 カテゴリー: [国際協力](#), [中国](#) Tagged with [プレゼンス](#), [震災](#), [地震](#), [救援](#)

暑くて濃いミニバス

ネパール・カトマンズ盆地のミニバスは、安くて便利だ。トヨタ・ハイエースなどを使い、乗客を詰め込めるだけ詰め込み、猛スピードでぶっ飛ばすので、乗るには多少のコツと勇気を要するが、要領さえつかめば、どこでも乗り降りできるし、15～20 ルピーでたいいのところには行ける。

そのミニバスで、先日、とんでもないサービスを受けた。ネパール在住の方には周知のことだろうが、なんと、ミニバスの前方上方に TV モニターが設置され、PR 付ビデオが放映されていたのだ。

しかもそのビデオが、例のマサラ系。カンカン照りの晴天の上、例のバルクーやカリマティで長時間渋滞。こんな時は気を利かせエベレストかアンナプルナ方面の爽やかな高原ものでも流してくれたらよいのに、そんな配慮は一切なし。炎天下、排ガスまみれで、超濃厚マサラ映像 & 音楽を延々と堪能させられたわけ。

さすがのネパール人乗客にも口笛、掛け声の元気なし。20 ルピーで超濃厚ネパール！ 通に、お勧め。



谷川昌幸(C)

2015/08/01 at 19:40 カテゴリー: [文化](#), [旅行](#) Tagged with [カトマンズ](#), [バス](#), [映画](#)